令和８年８月７日

# 令和８年度 学校関係者評価報告書

学校法人大原学園
大阪ホテル鉄道＆ブライダルビューティー専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人大原学園　大阪ホテル鉄道＆ブライダルビューティー専門学校学校関係者評価委員会は、令和７年度自己点検・評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下のとおり報告致します。

１．実施日

令和８年８月６日

２．学校関係者評価委員

江口　美貴　　氏　（株式会社　ヴルーメン　取締役会長）
髙野　芳樹　　氏　（株式会社　ＴＡＴ　代表取締役社長）
外林　健人　　氏　（株式会社　ＪＴＢ　神戸支店　営業第二課長）
桐野　普一　　氏　（東武トップツアーズ株式会社　関西支社　大阪法人事業部　営業担当部長）
此上　真己　　氏　（株式会社　ＴＥＩ　支店長）
川喜多美由紀 氏　（株式会社　阪急阪神ホテルズ　運営管理本部 人材開発部長）

（事務局）

宮路　信美　（大阪ホテル鉄道＆ブライダルビューティー専門学校　校長）
藤井　智香　（大阪ホテル鉄道＆ブライダルビューティー専門学校
ブライダルビューティー課　課長）
梶原　賢二　（大阪ホテル鉄道＆ブライダルビューティー専門学校　留学生・ホテル課　課長代理）
中川　博貴　（大阪ホテル鉄道＆ブライダルビューティー専門学校　留学生・ホテル課）

## 令和７度自己点検・評価の概要

大阪ホテル鉄道&ブライダルビューティー専門学校の 2025 年度における自己点検・評価については、全般的に良好な結果であった。

学校運営は、意思決定システムが確立されており、円滑な運営が行われている。教育理念に基づいた有為な人材育成を行うために、運営方針は明確化され、教育理念を達成するための事業計画の策定や各種研修制度の確立もできている。経営面では、予算計画・執行は規定に従って適切に行われており、財務基盤も安定している。

昨年度は、学校関係者評価委員の皆様より、「教員の資質向上への取り組みを行っているか」「留学生の相談支援体制について」「学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制」「産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取組んでいるか」の 4 点に関してご助言を頂戴し、重点的に改善に努めてきた。また、留学生在籍者の増加に伴い、「日本社会の理解の促進に資する授業科目」を開設した。日本の各種ルール説明やビジネスマナー・日本文化の理解を深める科目である。また、留学生への学生支援の一環として一部掲示物は複数言語を活用している。

将来像を意識した幅広い業界・分野への就職指導においては、教職員が担当学生の希望の把握を行い、組織的に学生指導・対応力の強化を図っている。

## 令和８年度　重点項目１

教員の専攻分野における実務に関する知識・技術、技能を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っていること。【注）職業実践専門課程】

教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っていること。【注）職業実践専門課程】

### ＜評価の視点＞

①職業実践専門課程の認定校においては、企業等と連携した研修（専攻分野の知識等）を組織的に行っているか

②職業実践専門課程の認定校においては、企業等と連携した研修（指導力の向上）を組織的に行っているか

### ＜現状の説明＞

達成度合：２（三段階評価）

企業等と連携した教員研修を実施し、各学科が目指す資格試験の制度や業界ニーズに対応する教育が実践できるよう、教員の資質向上に努めている。

### ＜長所・課題＞

現状の研修を続けながら更なる質向上のために研修内容や方法についてより効果的なものを検討する。

### ＜学校関係者の評価・提言＞

（江口委員）学校の各種のスキルアップの姿勢に対して評価しています。以前実施したブーケ実技研修のように実施できる内容があれば協力します。

（髙野委員）学校の取り組みについて評価をしています。以前ご紹介した、スクーというサービス（https://schoo.jp/）を個人で取り組まれていることは素晴らしいと感じます。その他、自社のサイト内のオンライン研修等もいつでも活用ください。

（川喜多委員）今後労働力不足が深刻化するなかで多様化する顧客のニーズの変化に対応し人が生み出す価値を最大化するため、デジタル化などホテルの現場は目まぐるしく変化することが想定される。教職員の皆さんにはホテルの実際の職場で実務に触れ、現在の学校教育が業界のニーズにどう対応しているのか確認する機会、ホテル業界の実情を教員自ら体験する機会を短期間でも定期的に設けられると、知識やスキルを最新の情報にアップデートでき、教育の質の向上に役立つと考える。

（此上委員）今後も継続して貰いたい。

（外林委員）目まぐるしく環境が変わる業界でもあるので、教員様もより実践的な現場での研修に参加頂き、新しい情報を即座に取り入れられる体制を整えていく事が必要かと思います。実施頻度は半年から１年に１回程度で十分かと思うが、その質を高める必要があると思います。現に我々がどの様なセールスツールを活用し、どの様なターゲットへアプローチしているのかを知って頂く。もちろん社外秘の内容もありますが、トラベル業界もかなりオープンに情報開示を行い、少しでも企業の課題を解決できる接点を増やそうとしておりますので、企業様向けの HP を参考にしながら学ぶ事も必要かと思います。また、やはり現場を知ることが一番の近道であり、一番の知見の向上に繋がると思います。インターンシップの様な形でも座談会の様な形でも結構ですので、実体験・擬似体験をして貰えるプログラムが効果的かと思います。

（桐野委員）現状の研修を継続して貰いたい。

**令和８年度　重点項目２**

外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を 300 時間以上開設していること。【注）外国人留学生キャリア形成促進プログラム】

## ＜評価の視点＞

①外国人留学生キャリア形成促進プログラムの認定課程を設置している専門学校においては、外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を 300 時間以上開設しているか

②該当する授業科目は、文部科学省が規定する要件を満たす適切な内容になっているか

## ＜現状の説明＞

達成度合：２（三段階評価）

①一部学科においては外国人留学生比率が 50%超となっており、認定課程となっている。現状では日本社会の理解の促進に資する授業科目を 400 時間開設している。また、日本人生徒との交流を図ることができる教育環境にある学科（留学生が占める割合が２分の１の範囲内）についてはこの限りではない。

②文部科学省が規定する要件を満たす適切な内容になっており、外国人留学生キャリア形成促進プログラムの認定を受けている。

## ＜長所・課題＞

①現状でも量は十分であるといえる。質の改定ができないかは継続的に検証する。今後、他の学科が同様に動けるように、科目を検討しておく必要がある。

②更なる高みを目指し、教育課程編成委員会などでより多くの意見を得られるようにしていきたい。

## ＜学校関係者の評価・提言＞

（江口委員）学校の取り組みを評価しています。

（髙野委員）学校の取り組みを評価しています。

（川喜多委員）留学生比率が高いなかでこれだけ手厚い教育をされているのは、多様な人材を求めるホテル業界にとって非常にありがたいこと。学校で学んだことが単なる知識ではなく、実際の職場でどう活かされるのか、具体的にイメージできる場も必要と考える。例えば、企業で活躍する外国人スタッフをロールモデルとした交流会、実際の職場で起こる事例を共有し対処について意見交換を行うワークショップ形式の勉強会など。

（此上委員）留学生の受け入れる企業として、「技人国ビザ」で業務は通訳とすることが多い。実務でも日本語の使用頻度も多く、会話で日本人とのコミュニケーションが取れるか取れないかが重要と考えている。文化も大切ではあるが、コミュニケーション力や日本語力が大切である。御校ではグループの中に日本語学校もあり、そこでのノウハウを現行も取り込んでいる点は、留学生が就職する上でも受け入れる企業としてポイントが高くなると考えます。

（外林委員）日本人の感覚・感性・営業や接客等におけるビジネススキルを身に着けさせる事は引き続き必須です。そこにプラスして自国への理解や貢献度が重視される時代に突入しているかと思います。一例になりますが、当社では積極的に外国人留学生を現在採用しており、簡単なロールモデルは以下の通りです。1～2 年目：日本マーケットでの営業スタイルや社内ルールを学ぶ。3 年目：母国へ戻り、現地の日系企業や現地企業に母国語で営業をすることです。“日本人感覚を持った第二言語を操る営業マンや後方支援スタッフ”は大変貴重な存在となっております。言語能力が高いだけでは無く、日本での働き方やマナーを知っているだけで、現地での日系企業との商談機会や成約数が圧倒的に向上するのはもちろん、我々日本で働く者が現地支店とコミュニケーションを図る際にも非常にスムーズに業務が遂行される構成が整いつつあります。よって、自己ＰＲをする際には是非母国へ帰ることを前提にした将来像を語るのも今後は必要かと思いました。また、留学生マーケットにおいては、就職率だけで無く、定職率(離職率)も必要な数字かと思います。先ほどの理由で海外マーケットにグループ会社がある企業であれば良いですが、そのまま母国に帰国するケースも多々あるかと思いますので、その部分を数値化することで対策や業界バランスが見えてくることもあるかと思います。

（桐野委員）引き続き継続してもらえればと思います。

**令和８年度　重点項目３**

企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という）の授業を行っていること。また、教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位時間または単位数の総授業時数に占める割合を具体的に設定していること。【注）職業実践専門課程】

## ＜評価の視点＞

①職業実践専門課程の認定課程（学科等）を設置する学校においては、実践的な職業教育として必要な企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という）を行っているか

②連携実習等の総授業時間数に占める割合を設定しているか

③連携実習等において、協力機関等と到達目標等を共有し、成績評価等について必要な協働・連携する体制を整備しているか

## ＜現状の説明＞

達成度合：２（三段階評価）

①職業実践専門課程の認定課程（学科等）においては、企業等と連携した実習、実技、実験または演習等を実施している。

②明確な割合を設定できていない。

③70%程度整備されている。企業と連携している実習の中には一部企業からの成績評価等についての連携ができていない。

## ＜長所・課題＞

①実習につき、実施されている。方向性は同じではあるが、時間の関係で企業から提案を行ってもらっても、全てを実現できない場合がある。

②教育の質を一定化するためにも実践力を維持できる割合を検証していきたい。

③協力期間等からの成績評価について到達目標の共有や、成績評価等の協働率 100%を目指していく。

## ＜学校関係者の評価・提言＞

（江口委員）企業と連携した実習において、当社が提携しているホテルなどでのインターンシップが可能です。提携ホテル様でのブライダルフェアやショールームの設営体験など現場での経験を通じて業界への理解の向上等につなげることができます。

（髙野委員）学校として、企業様と連携した実習についてとても充実されていると思います。

（川喜多委員）どのような分野においても、実際の職場をイメージするための演習等を積極的に行っておられることは学生の皆さんにとって貴校の大きな魅力と考えます。弊社にはHRS、ソムリエ、バーテンダー、マナープロトコール協会認定講師などの資格を取得し、社内講師として活躍する従業員がおりますので、微力ながらご協力ができることもあろうかと思います。必要でしたら、お声がけください。

（此上委員）継続で問題ございません。

（外林委員）トラベル実習を今後できればと思います。インターンシップの大学生が行っている様なプログラムを参考に、貴校とも実施できる内容は多々あると思います。

（桐野委員）継続で問題ございません。

**令和８年度　重点項目４**

学生の進路に関する目標を定め、その目標を達成していること。

## ＜評価の視点＞

①学生の就職、進学等進路に関して具体的な目標を定め、その目標の達成状況を把握しているか

②卒業後の進路・キャリア形成に関する相談や指導などの支援体制を整備し適切に運用しているか

③卒業生の進路・キャリア形成状況等を踏まえ、当該専門学校の教育課程、教育方法、学修成果等を検証し、必要に応じ、それを踏まえた改善・向上策をとっているか

④卒業生、実習先・就職先など関連する企業及びその他組織の意見や在学生の意見を勘案するなど、多角的、継続的な視点に立った検証方法等について工夫をしているか

## ＜現状の説明＞

達成度合：２（三段階評価）

①把握できている。

②運用できている。１年次よりのガイダンスや面談が目標策定・達成度把握・卒業後の進路相談等につながっている。

③概ねできている。

④概ねできている。就職課が企業様とやり取りをする際には、卒業生の状況等をヒアリングし、教務と連携を取る体制ができている。教務側では得た情報を元に、教育課程の編成の際の参考にしている。また、教育課程を検証する際には教育課程編成員会での討議された内容が活用されている。さらに、学校の自己点検評価を学校関係者評価委員会で協議することで多角的に学校についての検証を行っている。

## ＜長所・課題＞

①②特になし。

③④就職課が状況のヒアリングをできている企業が一部にとどまっている。

## ＜学校関係者の評価・提言＞

（江口委員）体系的に取り組まれていると感じます。

（髙野委員）体系部分いついては継続で問題ございません。美容業界の卒業後の課題を鑑みると「３年離職率が高い点」と「メンタル不調による離職が多い点」が挙げられます。３年たたないと仕事の面白さがわからない面があるため、ぜひ指導やガイダンスの中でその点を教えてあげてください。

（川喜多委員）特になし。

（此上委員）継続で問題ございません。

（外林委員）当社において、求めている人物像は語学が必要最低限あればベターという事とITに関するノーアレルギーな素質は必要になりつつあります。今までは旅行はカタチが無い、無限の知識と経験がモノを問われる以上、現場で慣れるのが一番だという方針がありましたが、今はAIがプランニングもすぐにできてしまい、最新の観光素材も我々より遥かに持っている時代に突入し始めています。但し、我々は”AIに業務を奪われる”という考えではなく、”AIと共存する”という方針を

取ろうとしております。つまり現場レベルの人間もAIやITツールを駆使し、常に時代の最先端にある情報を確保できる人材が重宝されます。もちろん現場で培ったAIには理解できない部分(感動体験や幸福体験度合)を肌で感じ、その価値提供をお客様へ行う事も今まで通り必要になりますが、世に言う”二刀流”プレイヤーを求めています。回りくどい言い回しとなり申し訳ございませんが、つまり特別な資格は必要なく、気合と根性だけでもどうこう言える時代でも無く、”語学”と”IT”を兼ね備えたハイブリッドな人物が求められていると感じます。まぁ、どの業界もそうかと思いますが・・・。そして何より、各業界がどの様な人材を求めているのかの情報アップデートをする機会を設けるのも必要かと思います。この様な定期的な委員会や臨時での意見交換会等は非常に有益な情報を交換できる場かと思います。

（桐野委員）継続で問題ございません。

## 全体評価と総括

（学校関係者評価委員）

大阪ホテル鉄道&ブライダルビューティー専門学校の教育成果及び学生指導並びに学校運営の取組みについて、企業の視点から検証を行い自己評価結果は妥当であると評価いただいた。

今年度重点的に取り組む項目として「教員の資質向上への取り組みを行っているか」「留学生に対する相談体制の整備」「産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取組んでいるか」「学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか」を挙げている。いずれに対しても例年通りの対応ではなく時代に合わせた対応に対する取り組みには評価をいただくと同時に、さらなるご提言を頂いている。

（事務局）

今回の委員会でも、学校関係者評価委員から様々なアドバイスを頂戴した。教職員一同いただいたアドバイスをしっかりと活用し、大阪ホテル鉄道&ブライダルビューティー専門学校運営の更なるブラッシュアップを図っていきたいと考えている。

文責　藤井 智香

梶原 賢二